

SUPERBIKE
EXtra, EXpert and EXtreme
EXPRESS--関口太郎がイニシアチブを握るJ-GP2
J-GP3はセナ、哲太、仲城、山本タケ、國峰、徳留
6台がトップグループを形成しそうだ!J-GP2 QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW

昨年に続き、ツインリンクもてぎでは2度目となる2&4レースを迎えた。今年、全日本ロードレース選手権はシリーズ第5戦として開催され、J-GP2クラスに加え、J-GP3クラスも行われた。

厳しい暑さの中で行われた公式予選。今回は3戦目となるJ-GP2クラスは前日の走行で1分53秒台をマークしている関口太郎が予選セッションも圧倒。1分54秒405をたたき出しコースレコードを更新し、同じツインリンクもてぎで行われた開幕戦に続き、今季2度目のポールポジションを獲得した。

「(1分53秒台を出した)昨日の1本目は4輪のF3が走る前だったので条件がよかったみたいですね。予選では、1分54秒台で走っていますし、肩の状態もよくなっていないので単独で逃げるのができれば一番いいですね」と関口。

実際、4輪が走った後は、全体的にラップタイムが落ちていた。土曜日からフォーミュラ・ニックンも走り始めており、予選の走り始めは路面の状況を確認してからタイムアタックに入るライダーがほとんどだった。セッション終了後は、それほど影響を受けていないという意見と、すぐく影響を受けるという意見が両方聞かれた。予選2番手につけた中本郡は、影響を受けたと語った一人。「これほど路面状況が変わるとは思いませんでした。バイクのフィーリングが全く変わってしまいましたから。ベストタイムを単独で出せましたが、今ひとつ安定しないので、決勝朝のウォームアップで確認して決勝ではベストを尽くします」と中本。

レコードタイムで今季2度目のポールポジションを獲得した関口太郎



フロントロウ最後となる予選3番手につけたのがポイントリーダーの渡辺一樹だった。「金曜は違うセットを試したのですが外れてしまったので開幕戦の状態に戻してアジャストしていきました。シリーズを考えると太郎さんが一番のライバルになると思うので負けないように頑張ります」とコメント。

セカンドロウ4番手グリッドの野田弘樹は、「8耐マシンからの乗り換えで苦勞するかと思ったけれど、今回から投入したリンクがよかったので、まだまだタイムを詰めていけると思う」と好調だ。

また、セッション序盤に1コーナーで転倒。Tカーでタイムを更新できなかった野左根航汰も注目だ。マシンは走っており、ライダーも乗っているだけにトップ争いに絡んでくる可能性は高いだろう。

決勝は関口が逃げ、それを中本、渡辺、野田、浦本修充、生形秀之、野左根が追う展開となりそう。関口のペースに何台ついていけるか? いずれにせよ関口がイニシアチブを握りそうだ。

ポールポジション
INTERVIEW

Pole Position

Taro SEKIGUCHI
関口 太郎
Team TARO PLUS ONE

「今年は8耐に出場しなかったので、体力や準備のことを考えるとスケジュール的には出なくてよかったけれど、ツインリンクもてぎはスポーツ走行を1度走っただけなので不安だった。前戦からのインターバルは、モトクロスやトライアルなど、なるべくバイクに乗るようにしていました。(完治していない)左肩の神経が戻らないので、他の部分で補って走るように心がけていたけれど、金曜日の走行で1分53秒台が出て自分でも驚いた。バイクのセッティングは、いい方向にきているので、決勝は最後まで体がもつように気をつけて走ります。できれば淡々と走って引き離したいけど、そうはいかないと思うので状況をよく見て行きます」

J-GP3 QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW

J-GP3クラスは史上初めての2&4レースとなる。4輪のラバーの影響を受けることを初めて体感するライダーがほとんどで、変化する路面コンディションをどう攻略するかがカギを握っていた。

その難しいコンディションの中で、ポールポジションを獲得したのは、ツインリンクもてぎをホームコースとしている山田誓己だった。「本当は2分0秒台を狙っていたのですが、今回の路面コンディションでは難しかったですね。マシンもいい状態に仕上がっているのでもホームコースで勝ちたいですね。ただ、長島選手は、金曜日にほとんど走れていない状態で2番手、3番手の仲城さんもマシンが走っているようなので気になるところですね」と山田。昨年のオートポリスラウンドに続き2度目のトップグリッド獲得となった。

山田が警戒する長島哲太は、「やっとフリー走行が終わった感じです。予選が始まった直後は、自分の思ったところで止まれず、まとまっていなかった感じでした。ラストアタックで何とか2番手に入れましたが、いい方向に向かっていきます。オープニングラップは路面が汚れていそうなので気をつけますが、ガンガン行きたいですね」と長島。そのチームメイトの仲城は「予選ではセットを変えていいところを伸ばす方向でセットアップしていきました。マシンの状態はいいので、自信がありますね。トップ争いは、なるべく少ない台数にしたいので、レースを引っ張

ポールからスタートする山田誓己。ホームコースだけに注目も集まる



BS12ch TwellV (トゥエルビ)は全国無料放送!!
「MFJ全日本ロードレース選手権第5戦もてぎ2&4レース」をダイジェストでお届け。
○番組ホームページ: <http://www.twellv.co.jp/program/sports/index.html#spo60>

るかもしれませんね」とコメント。

速さを持っている長島と仲城の7C勢がレースを引っ張りそうな雰囲気。これをポールポジションの山田、セカンドロウの山本剛大、國峰琢磨、徳留真紀が追う展開となりそう。ベテランの菊池寛幸も本番に強いライダーだけに、トップ争いに加わってくるか? 長島と仲城のペースに何人のライダーがついていけるのだろうか?

スポット参戦のMotoGPロードレース世界選手権Moto3クラスに参戦中の2011年チャンピオンの藤井謙汰は、トラブルが多く満足に走れていないが、マシンセットがいい方向にいけばトップ争いに絡んでくるだろう。また、代役参戦の安田毅史は、マシントラブルもあり22番手グリッドから追い上げのレースとなる。

ポールポジション
INTERVIEW

Pole Position

Sena YAMADA
山田 誓己

TEAM PLUSONE&ENDURANCE

「今まで2&4を経験したことがなくて、金曜日に走ったときに路面の状況がひどかったので、予選のはじめは慎重に走りました。まずユーズドタイヤで路面を確認して、状況を見極めてから新品タイヤでアタックしました。チームも頑張ってくれていて、マシンの戦闘力を上げてくれているので、ポールポジション獲得という形で応えることができてよかった。ツインリンクもてぎは開幕戦でノーポイントという悔しい結果に終わっているのでも、その悔しさを今回のレースにぶつけていきたい。決勝は混戦は避けられないと思いますが、地元のツインリンクもてぎで初優勝を決めたいですね」